

事業報告書

平成25年度

(第6期事業年度)

自 平成25年 4月 1日

至 平成26年 3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

①設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

②事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

③主たる事務所 酒田市あきほ町30番地

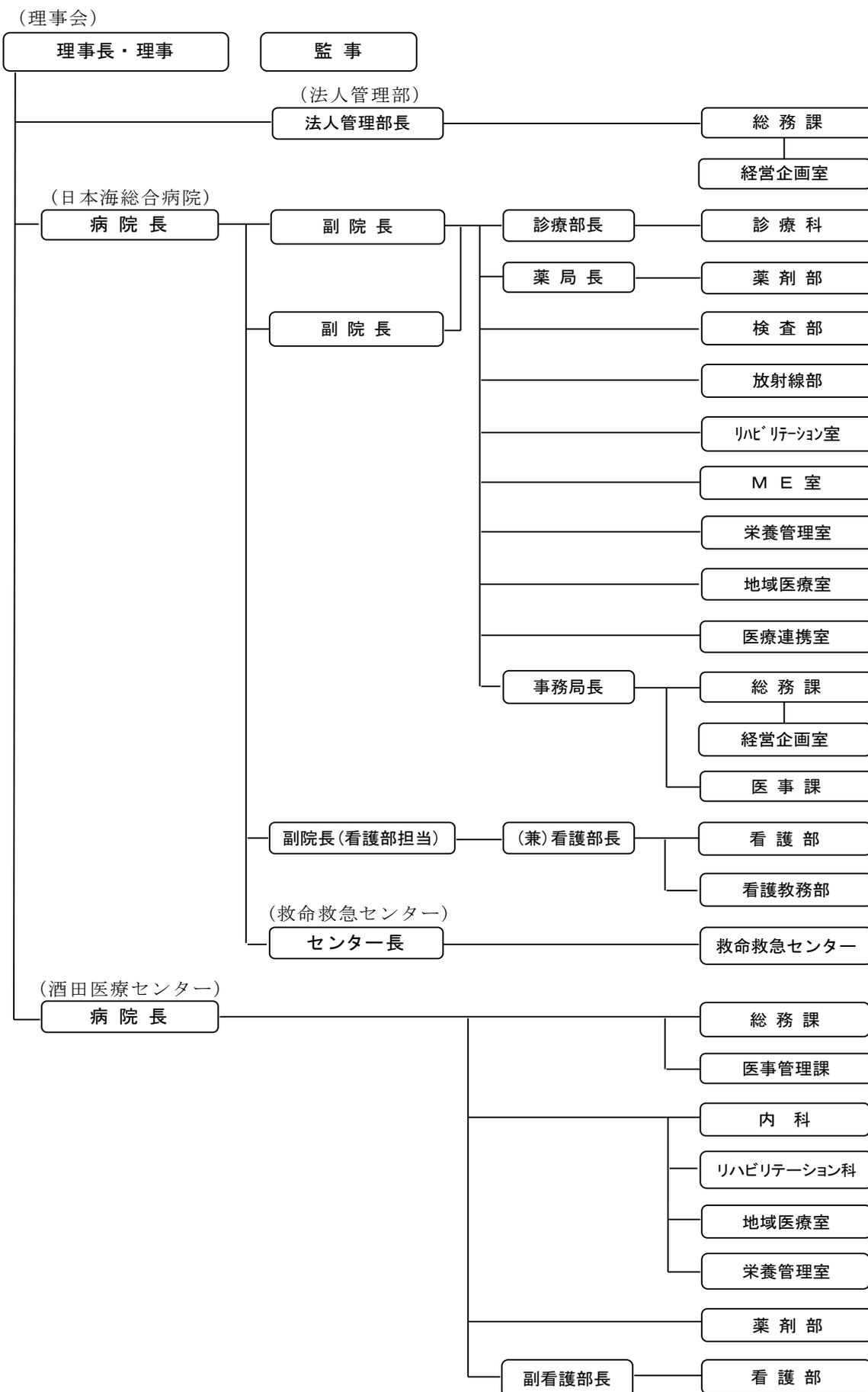
④役員

職名	氏名
理事長	栗谷 義樹
理事	田宮 和朗
理事	島貫 隆夫
理事	小熊 正樹
理事	佐藤 三紀
理事	脇川 清道
監事	齋藤 俊勝
監事	加藤 栄

⑤ 設置、運営する病院

日本海総合病院	酒田市あきほ町30番地
日本海総合病院 酒田医療センター	酒田市千石町2丁目3番20号

⑥ 組織



⑦ 職員の状況

(4月1日現在)

職 種	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H24	H25	増減	H24	H25	増減	H24	H25	増減
医師・歯科医師	119	132	13	4	4	0	123	136	13
医療技術員	118	126	8	17	21	4	135	147	12
看護職員	552	554	2	37	37	0	589	591	2
事務職員	36(1)	38(1)	2(0)	6	5	△1	42(1)	43(1)	1(0)
計	825	850	25	64	67	3	889	917	28
法人職員	785	837	52	60	65	5	845	902	57
県派遣職員	34	6	△28	0	0	0	34	6	△28
市派遣職員	6	7	1	4	2	△2	10	9	△1

※()は法人管理部職員数で内数

⑧ 資本金の状況

11,303,899,678円 (平成25年9月13日変更登記時)

◇平成25年度の事業概要

1 診療計画及び診療に関する重点事項等

(1) 診療計画

日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センター（以下、「酒田医療センター」という。）は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、地域医療向上のために以下のような取組みを行った。

①日本海総合病院

地域の中核病院として急性期医療の充実に努め、地域医療支援病院をはじめとする各種指定の病院機能を十分に発揮し、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療の提供に努めた。

日本海総合病院の機能

規 模	646床
診 療 科 (25科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科
病床の種別	一般病床
併設診療機能	救命救急センター、屋上ヘリポート設置
特殊診療機能	ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室） 未熟児室 感染症病床 放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	診療科全般
そ の 他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所

②酒田医療センター

急性期病院での治療が終了し、自宅退院や施設入所が困難な患者及び積極的なリハビリテーションを必要とする患者への医療の提供を行った。地域の課題であった通所リハビリテーション（デイケア）の提供を開始し、患者のQOL維持・向上に努めた。

酒田医療センターの機能

規 模	114床
診 療 科 (2科)	内科、リハビリテーション科
病 床 の 種 別	療養病床
特殊診療機能	地域医療室（地域連携・在宅療養支援など） 通所リハビリテーション（デイケア）
そ の 他	病院間移動用ワゴン車

(2) 診療に関する重点事項

①診療体制の整備

医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成25年度は、次のとおり診療部門の充実を図った。

a) 救急医療(日本海総合病院)

○救命救急センターの機能の充実を図るため、新たに救急科専門医の育成に取り組んだ。

○ドクターカーの配備を検討するため、酒田地区広域行政組合の「酒田救急ワークステーション」との連携強化を図り、当該組合の要請によって医師及び看護師が救急車に同乗・出動した。

【実績】救急車同乗・出動件数

H24	H25
3件	5件

○山形県ドクターヘリ、酒田市及び飛鳥診療所と共同で、患者搬送訓練を行った。

○より症状の重い患者に救命救急センターの医師が対応できるよう、一般社団法人酒田地区医師会十全堂（以下、「酒田地区医師会」という。）の協力により小児を含む平日夜間救急外来が、酒田市の財政支援のもとに継続して行われた。

【実績】救命救急センター受診状況

		H24	H25
延べ患者数		23,979名	24,653名
酒田地区医師会 診療支援	小児(延べ)	(743名)	(639名)
	成人(延べ)	(1,715名)	(1,582名)

※（ ）内は、「延べ患者数」の内数である。

b) がん医療(日本海総合病院)

- 地域がん診療連携拠点病院として、さらに機能の充実を図るため、緩和ケア病棟若しくは病床を設置し、又は緩和医療科の開設について検討を開始した。
- 「相談支援センター相談員基礎研修(3)」を受講した、がん相談員を5名体制(看護師3名、社会福祉士2名)とし、がん相談支援体制の充実を図った。

【実績】がん相談件数

H 2 4	H 2 5
8 1 8 件	1, 2 0 4 件

- PET/CTの稼働状況は、次のとおりであった。

【実績】PET/CT検査件数

	H 2 4	H 2 5
検査件数	4 4 2 件	8 1 1 件
(うち検診件数)	(2 2 件)	(1 8 6 件)

- 手術、放射線療法及び化学療法を、効果的に組合わせて治療を実施した。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

	H 2 4	H 2 5
手術	1, 1 2 3 件	1, 1 1 7 件
放射線療法	7, 7 9 3 件	7, 9 2 8 件
外来化学療法	3, 0 9 2 件	4, 9 2 2 件

- 緩和ケア医療の充実に取り組んだ。

【実績】病棟回診延べ患者数、緩和ケア外来患者数

	H 2 4	H 2 5
病棟回診	3 6 7 名	4 4 9 名
緩和ケア外来	1 0 5 名	1 6 8 名

- セカンドオピニオン外来の充実に取り組んだ。

【実績】実施件数

H 2 4	H 2 5
4 件 (がん 3 件)	11 件 (がん 10 件)

※ () は、内数である。

- 地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行った。

【実績】がん登録件数

	H 2 4	H 2 5
院内がん登録	1, 6 8 4 件	1, 7 0 5 件
地域がん登録	1, 6 5 3 件	1, 6 8 0 件

c) 脳卒中・急性心筋梗塞

- 患者の社会復帰に資するため、救命救急センターと関係する各診療科、リハビリテーション部門との連携強化を図った。
- 専門的医療やCT、MRI検査の24時間対応を継続した。

【実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数

機器	H 2 4	H 2 5
CT	1, 0 1 5件	9 3 4件
MRI	8 1 9件	9 2 9件

【実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数

機器	H 2 4	H 2 5
CT	2 5 5件	2 6 5件
MRI	4 0件	3 1件

- 日本海総合病院では急性期リハビリテーションの充実を図り、酒田医療センターの回復期リハビリテーションとの連携強化を図った。

【実績】心大血管疾患リハビリテーション料 1

	H 2 4		H 2 5	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
日本海総合病院	422名	9,196回	534名	12,453回

【実績】脳血管疾患リハビリテーション料 1

	H 2 4		H 2 5	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
日本海総合病院	1,303名	44,118回	1,400名	43,956回
酒田医療センター	243名	40,963回	269名	48,761回

d) 糖尿病(日本海総合病院)

- チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組合わせた教育入院等の治療を行った。

【実績】教育入院患者数

H 2 4	H 2 5
8 3 名	5 2 名

【実績】個別栄養指導件数

	H 2 4	H 2 5
入院	2 3 9件	2 5 2件
外来	3 3 6件	3 2 7件
合計	5 7 5件	5 7 9件

- 糖尿病教室を14回開催し、44名の参加があった。
- 看護師と管理栄養士が共同で、25名(実患者数)の患者に対して延べ55回の糖尿病透析予防指導を行った。
- 人工透析患者の増加に伴い、3床増設した。

e) 回復期リハビリテーション(酒田医療センター)

○回復期リハビリテーションの充実のため、理学療法士を1名、作業療法士を2名、言語聴覚士を1名それぞれ増員し17名体制とした。

○ドライブシステム(運転機能評価システム)を導入し、より効果的なリハビリテーションを行った。

○平成25年6月から、通所リハビリテーション(デイケア)を開始した。

【実績】リハビリテーション科の延べ患者数

	H24	H25
入院	11,366名	11,776名
外来	120名	392名

【実績】リハビリテーションの実施状況

	H24		H25	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
外来リハビリテーション	9名	299回	18名	498回
通所リハビリテーション			20名	1,040回

※「通所リハビリテーション」の「回数(単位数)」は、利用者の通所回数である。

f) 在宅医療支援及び療養支援

○日本海総合病院では、地域医療室及び医療連携室の看護師7名又は社会福祉士3名が、地域の介護・福祉・医療機関及び患者との退院調整業務を行った。

○酒田医療センターは看護師2名体制で、退院調整及び入院前面談等を実施した。

【実績】退院調整

	日本海総合病院		酒田医療センター	
	H24	H25	H24	H25
他病院	875件	953件	28件	33件
在宅	522件	492件	177件	231件
介護老人保健施設	70件	84件	39件	41件
介護老人福祉施設	154件	110件	5件	1件
ショートステイ	89件	101件	11件	8件
有料老人ホーム	115件	130件	21件	12件
その他	81件	61件	8件	4件
合計	1,906件	1,931件	289件	330件

【実績】入院前面談件数(酒田医療センター)

	H24	H25
入院前面談件数	397件	496件
うち入院患者数	377名	471名

○在宅患者及び介護・福祉施設の入所者に対して、かかりつけ医と連携して医療支援を行った。

○酒田地区医師会十全堂訪問看護ステーション「スワン」と、在宅医療の連携強化を図った。

g) その他

○日本海総合病院と酒田医療センターの両病院間を患者が移動するため、「げんき号」を定期便の他、必要に応じて臨時便を運行した。

【実績】 利用実績

	H 2 4	H 2 5
延べ乗車人数	4,057名	3,975名
乗車率	12.9%	12.7%

②災害時や健康危機における医療協力

○平成25年11月21日に発生した、秋田県由利本荘市矢島町における工事現場土砂崩れにより、山形県からDMATへの待機要請があった。しかし、秋田県から山形県に対しての派遣要請がなかったため、待機は解除され出動はしなかった。

○他の機関が実施した災害医療訓練又は研修に、次のとおり参加した。

訓練実施日	会 場	訓 練 名 称	参加者
H25. 7. 27~28	岩手県盛岡市	東北DMAT技能維持研修	3名
H25. 8. 2	三川町	日赤山形県支部机上訓練	6名
H25. 8. 30	秋田港	秋田県DMAT訓練	5名
H25. 9. 1	鶴岡市小真木原運動公園	山形県・鶴岡市合同総合防災訓練	6名
H25. 9. 8	酒田市立第四中学校	酒田市総合防災訓練	5名
H25. 9. 26~28	北海道釧路市	日赤第一ブロック合同訓練	6名
H25. 10. 5~6	宮城県	東北DMAT参集訓練	5名
H25. 10. 19	山形市	山形県医療救護訓練	4名
H26. 1. 4~5	天童市	山形DMAT合同訓練	7名

○他の機関が実施した研修に、インストラクターを派遣した。

研修実施日	会 場	研 修 名 称	派遣数
H26. 1. 18	宮城県仙台市	東北DMATロジスティクス研修	3名
H26. 1. 18~19	宮城県仙台市	東北DMAT技能維持研修	4名

○災害対策委員会が主体となって、日本海総合病院全職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に、災害医療研修を次のとおり実施した。

実施日	会場	研修内容等	参加者
H25. 5. 31	日本海総合病院 講堂	「災害基礎とトリアージ」	79名
H25. 6. 24	日本海総合病院 エントランス	「模擬患者を使ったトリアージ」 協力：酒田地区広域行政組合消防本部	101名
H25. 8. 24	日本海総合病院 エントランス	「机上災害対応訓練」	80名
H25. 10. 26	日本海総合病院 エントランス、 外来ほか	「災害対応実働訓練」 協力：酒田地区広域行政組合消防本部 酒田市立酒田看護専門学校	186名
H25. 12. 16	日本海総合病院 講堂	「災害対策実働訓練 総括」	38名
H26. 1. 28	日本海総合病院 講堂	「災害看護 一病棟編」	103名

○災害発生時に備え、次の災害医療対策用機器等を整備した。

	機材	機器名	メーカー	規格	数量
災害医療チーム 体制整備	応急用医療 資機材	資器材キャリングバ ッグ	ヘルスケア テック	34357	4
		予備蓄電池	パナソニック	CB-LS01H-K	2
		セーフティレインス ーツ（紺）	シグナル	高輝度反射材付	10
		ターポリン担架	日本船舶薬品	TT-1044-006	8
		万能ナイフ	ワコー	WSBN-HM	2
		簡易放射線量測定器	東京硝子	PA1000	1
		幅広ロック帯	OHM	370mm50 本入 結束内径 102mm 引張強度 54.4kg 幅 7.6mm	1
		ベンチレーター用駆動ホース	スミスディカル	DH-0M50 5m ミニカブラ 酸素用	1
		LSP 減圧弁オールフラス タイプ	スミスディカル	L280-220K ドイツ型 川重付	1
		パラパック搬送用バッグ	スミスディカル	W1230	1
	パラパック酸素-サンプル 呼吸回路	スミスディカル	100/905/300 10入	1	
その他 資機材	DMAT資材庫用ス チールラック	オカムラ	63X6AP-Z269	1	

災害拠点病院設備	応急用医療 資 機 材	ウインドブレーカー	A I M Y	000048-AJ	50
		折畳・可搬型軽量ミ ティン ^g ポ ^ー ト ^ド	プラス	MB-2 03-072	3
		のぼり旗セット		1800×450~600mm	24
		カセットガス発電機	ホンダ	E U 9 I G B	2
		充電式 L E D ライト 投光器 大	スミスライト	スタンダード	2
		充電式 L E D ライト 投光器 小	スミスライト	トラベラー	2
		L E D ランタン	G E N T O S	E X - 313CW	20
		差替ベスト（リ ^ー ダ ^ー -用）	ナカネ	013-6122	15
		納体袋	エイブル山内		20
		水電池	船山	7246901 30 本入	5
		折たたみ自転車	船山	7114409	1
	ハンズフリー拡声器	船山	7242557	5	
	NBC 対策 資 機 材	フェイスマスク	興研	HR-09	20
		吸収缶	興研	FDG-M60W	20
つなぎ防護スーツセット		タイベック	Ⅲ型	20	

○災害発生時に備え、次の職員用の食糧等を備蓄した。

品名等	メーカー	賞味期限・規格等	数量
アルファ米 各種	尾西	100g 5年	4,050 食
レトルトパック（おかず）各種	アルファ ^ー ズ	5年	4,000 食
飲料水	宝水	500ml 5年	5,016 本
運搬用折りたたみ式リアカー	ピカ	PHC130	3 台

○災害時においても、優先納入ができることを条件として物品購入契約を締結し、体制の整備を図った。

○新たな感染症が発生した場合は、感染対策委員会を中心に情報収集を行い、山形県をはじめ他の関係機関と連携し、患者の受入れを行う。

③政策医療の実施（日本海総合病院）

○ハイブリッド手術室の整備を行い、平成25年8月から稼働した。

○速やかな感染症患者の受入れのため、院内感染対策指針及び感染対策マニュアルの見直しを行った。また、感染対策の意識向上を図るため、主に職員を対象に次の研修会を実施した。

実施日等	研 修 内 容	備 考
H25. 10. 24 日本海総合病院 講堂	第1回 感染対策研修会 「全職員で取り組む感染対策 ～あなたの参加が大切なんです～」 NPO法人日本感染管理支援協会 理事長 土井 英史 氏	165名参加 (うち院外 15名)
H26. 3. 17 日本海総合病院 講堂	第2回 感染対策研修会 「インフルエンザとその感染対策」 株式会社エスアールエル 管理薬剤師 山下 美帆 氏	84名参加

○「認知症疾患医療センター」を運営し、引続き認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行った。

【実績】相談件数

	H 2 4	H 2 5
新規相談件数	7 8 9 件	7 3 3 件
継続相談件数	2 8 6 件	4 1 6 件

○平成26年2月22日に開催した、公益財団法人山形県臓器移植推進機構及び山形県が主催の研修会において、脳死下臓器提供シミュレーションを実施した。

④医療スタッフの確保及び資質向上

a) 医療人材の確保・育成

○医学生の教育及び医師育成のため、臨床研修医、レジデント及びスチューデントドクター等を受入れた。

【実績】臨床研修医等の受入れ状況

	H 2 4	H 2 5
臨床研修医	1 3 名	1 7 名
レジデント	1 6 名	2 3 名
スチューデントドクター	1 6 名	4 4 名
臨床医学修練生	1 名	1 名
地域医療実習生	4 名	4 名

○医師及び看護師以外の医療従事者を目指す学生について、薬剤部で1名、リハビリテーション室(科)で計16名、栄養管理室で2名、医事課で1名、大学又は専門学校等から合計20名の実習生を受入れた。

○より質の高い看護を提供するため、次の研修会を実施した。

実施日	対象者	人数	研 修 内 容
H25. 6. 11	レベル1 受講者	88名	「ヘンダーソンの看護理論を共通理解し看護実践ができる」 酒田市立看護専門学校 副学校長 草刈 妙 先生

H25. 6. 28	H25 年度 個人研究 発表者	13 名	「看護研究(個人):研究計画書に基づき、個別指導を通して看護研究実践能力を高める」 山形大学 医学部看護学科 成人慢性期看護学講座 准教授 武田 洋子 先生
H25. 7. 16	H26 年度 発表部署	30 名	「看護研究(部署):研究計画書に基づき、個別指導を通して看護研究実践能力を高める」 山形大学 医学部看護学科 地域看護学講座 助教 森鍵 祐子 先生
H25. 11. 12	H25 年度 個人研究 発表者	13 名	「集計に必要な統計手法の個別指導を通して看護研究をまとめることができる」 山形大学 医学部看護学科 成人慢性期看護学講座 准教授 武田 洋子 先生
H25. 11. 12	H26 年度 発表部署	30 名	「集計に必要な統計手法の個別指導を通して看護研究をまとめることができる」 山形大学 医学部看護学科 地域看護学講座 助教 森鍵 祐子 先生

- 4名の看護師が、緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師、脳卒中リハビリテーション認定看護師及び慢性心不全看護認定看護師の資格を取得した。
- 集中ケア認定看護師及び手術看護認定看護師の資格を新たに取得するため、2名の看護師を研修に派遣した。
- 薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図った。

b) 事務職員の確保と専門性の向上

- 医療法人健友会 本間病院及び庄内医療生協 鶴岡協立病院の事務職員と、平成26年2月14日に合同活動発表会を開催し、事務職員の知識の習得と専門性の向上を図った。
- 外部講師による次のような研修会を開催し、医師事務作業補助者の専門知識の習得と資質向上を図った。

実施日等	研修内容	備考
H26. 2. 26 日本海総合病院 講堂	第1回 診療報酬研修会 「特定共同指導における指摘事項について」 株式会社ニチイ学館酒田支店 病院課長 橋場 千春 氏	29名 (全体参加者 73名)
H26. 3. 19 日本海総合病院 講堂	第2回 診療報酬研修会 「平成26年度診療報酬改正について」 株式会社ニチイ学館酒田支店 マネージャー 佐藤 妙 氏	40名 (全体参加者 150名)

⑤医療サービスの効果的な提供

a) 地域連携の推進

○日本海総合病院は、庄内地域の中核的な医療機関及び地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担及び連携の強化を図った。

【実績】紹介率及び逆紹介率

	H 2 4	H 2 5
紹介率	61.5%	62.2%
逆紹介率	45.2%	47.2%

※地域医療支援病院における算出方法による。(歯科口腔外科を含む。)

○地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関との積極的な情報交換や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へとシームレスなサービスの提供に努めた。

b) ITネットワークの活用(「ちようかいネット」の活用推進)

○平成23年4月から稼働した「ちようかいネット」について、利用する医療機関等の拡大を図った。

・各年度の3月31日現在の状況

	病 院	医 科 診療所	歯 科 診療所	調剤薬局	介護老人 保健施設	訪問看護 ステーション	その他	登録患者数
H 2 4	15施設	53施設	6施設	11施設	4施設	2施設	1施設	6,669名
H 2 5	16施設	61施設	9施設	13施設	5施設	3施設	2施設	11,335名

c) 地域連携クリティカルパスの活用

○大腿骨頸部骨折、5大がん、脳卒中の地域連携クリティカルパスの適用件数の増加に努めた。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

	H 2 4	H 2 5
肺 が ん	0件	0件
大 腸 が ん	13件	19件
肝 が ん	0件	0件
乳 が ん	24件	18件
胃 が ん	9件	27件
大腿骨頸部骨折	105件	118件
脳 卒 中	92件	290件

○心臓リハビリを中心とした循環器病診療連携クリティカルパスの作成に取り組んだ。

○前立腺がんの地域連携クリティカルパスを稼働させた。

○糖尿病教育入院の院内クリティカルパスを稼働させた。

⑥庄内地域における医療水準の向上

○日本海総合病院は、庄内地域で唯一の認知症疾患医療センターとして、庄内地区の医療従事者、自治体の高齢者事業担当者及び地域包括支援センター相談担当者を対象に、次の講演会を実施し連携強化を図った。

実施日等	事業内容等	備考
H25. 10. 30 日本海総合病院 講堂	「レビー小体型認知症 ー発症や症状が特異な認知症について知るー」 山形大学医学部 精神科 小林 良太 先生	177名参加 (うち院外 148名)

○日本海総合病院は、酒田地区医師会の後援のもと、地域の循環器診療のレベルアップ並びにチーム医療及び地域連携の充実を図るため、「循環器連携セミナー」を開催した。

○平成23年度から日本海総合病院内に開設されている、山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室について、継続して調査活動に協力した。

○日本海総合病院は、酒田市立看護専門学校及びその他専門学校の実習施設としての役割を果たし、合計91名の看護学生を受入れた。

○「山形県看護教員養成講習会」に看護師2名を8ヶ月間派遣し、酒田市立看護専門学校の看護教員として育成した。

⑦住民の意識の啓発

○地域住民を対象に市民公開講座を開催し、健康に対する意識の啓発活動を行った。

実施日等	事業内容等	備考
H25. 9. 21 ガーデンパレス みずほ	地域がん診療連携拠点病院 市民公開講座 「胃がん ー最新の予防、診断、治療ー」 三沢市立三沢病院 事業管理者 坂田 優 先生	70名参加

○患者、地域住民向け及び関係者向けに広報誌「あきほ」を年間4回発行し、病院機構の施設整備の状況や治療に関する情報等の発信を行った。

○他の医療機関が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等について、講師の派遣を積極的に行った。

実施日等	事業内容等	備考
H25. 7. 18 酒田市総合 文化センター	第22回本間病院友の会 健康講演会 「意外と知らない！？救急医療の話」 日本海総合病院救命救急センター医長(兼)救急科科長 緑川 新一	

(3) 患者・住民サービスの一層の向上

○日本海総合病院では待ち時間対策として、各診療科の予約枠の人数の見直し、検査説明コーナーの見直し、入院受付時間の患者配分の見直し及び持参薬確認業務について改善を行った。

○「患者の声」の院内掲示及び病院ボランティアとの意見交換を行い、患者及び住民の目線に立ったサービスの向上に取り組んだ。

- 病院機構及び2病院のホームページにより、情報提供を行った。
- 日本海総合病院において、設備などの改修・補修を行い院内環境の整備を図った。
 - ・平成25年度は、次のとおり整備を行った。

整備箇所	整備内容
1階外来東側待合ホール	床材のはがれ等劣化が進んでいるため張替えを実施した。
整形、形成外科及び皮膚科外来	診察室のドアを車椅子等でも出入りしやすいよう、引戸に改修した。
エントランスホール等	山形県の支援事業費補助金を利用し有機EL照明を3台設置した。
外来駐車場	身障者用駐車枠が不足しているため10台分増設した。

- 日本海総合病院において、平成20年度から継続して重症心身障がい児（者）短期入所事業を行った。

【実績】延べ利用者数

H24	H25
28名	14名

- 病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「あきほ保育園」において継続して当該事業を行った。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	H24	H25
延べ利用者数	304名	233名

- 地域密着型で親しみがあり、信頼される病院づくりを目指し、地域交流事業として展示・即売施設「あきほ市」を5月から10月まで開催し、9月には病院祭「あきほ祭り」を開催した。

- 院内感染予防対策及び入院患者のスキントラブル防止のため、CSセット（紙オムツの日額定額制サービス）を導入した。

(4) 法令等の遵守と情報公開の推進

- 平成24年度に定めた基本理念等を、職員研修の場で周知を図るとともに、病院機構及び2病院のホームページを活用し、広く住民にもPRした。
- eラーニング方式で、全職員及び総合医療情報システムを使用する委託職員を対象に情報セキュリティ研修を行った。対象者1,278名のうち、411名が受講した。
- 「ちようかいネット」を利用している医療機関等に対し、情報セキュリティ研修を行った。対象施設71施設のうち、10施設12名が受講した。
- インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。

【実績】診療情報提供申出件数

	H24	H25
日本海総合病院	49件	70件
酒田医療センター	7件	2件

(5) 医療安全対策の充実・強化

○患者安全管理体制の推進・強化を図るため、医療安全対策委員会を中心に次のような活動を行った。

実施日等	研 修 内 容	備 考
H25. 10. 9 日本海総合病院 講堂	「報告・連絡のためのS B A R」 東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルマネジメント室 主任研究員 本山 和子 氏	105名 参加
H25. 11. 27 日本海総合病院 講堂	「各部署の取り組み発表」 看護部、検査部、放射線部、リハビリテーション室、ME室、 栄養管理室	81名 参加

○医療安全管理者を中心に速やかな情報の収集・発信・共有を図り、医療安全対策の一層の向上に取組んだ。

2 人員配置の弾力的運用

(1) 短時間正職員制度

○医師の確保及び定着化を図るため、要綱に基づいて短時間正職員制度を導入した。
平成25年度は、3名の医師が活用した。

(2) 負担軽減

○医師の負担軽減を図るため、引続き各病棟などに医療クラークを配置した。

【実績】医療クラークの配置数

H24	H25
59名	54名

○看護師の負担軽減を図るため、看護補助者及び事務補助者を配置した。

【実績】看護補助者及び事務補助者の配置状況

	H24		H25	
	看護 補助者	事務 補助者	看護 補助者	事務 補助者
病棟	66名	14名	67名	16名
その他	18名	8名	20名	11名
合計	84名	22名	87名	27名

(3) 障がい者雇用

○障害者雇用促進法に基づき、障がい者の雇用促進及び有効活用に努めた。雇用率は0.65%だった。

(4) その他

○雇用の安定と人材の確保を図ることを目的として、臨時職員の中で業務遂行能力が高く、長期就業意欲を有する者を、期限の定めのない雇用に転換する「スタッフ職員制度」を創設した。

3 施設整備及び医療機器等の整備計画

(単位：百万円)

区 分	執行額	財 源
資本支出		
建設改良費	2,000	設立団体からの長期借入金、出資(出資債)及び自己資金
酒田医療センター増築等	164	
レジデントハウス整備	167	
医療機器整備	1,458	
その他(改修工事等)	211	

(1) 統合再編に係る施設整備

○平成23年3月から始まった酒田医療センターの増築・改修工事は、平成25年4月にエントランス棟が完成したことにより竣工した。

◆酒田医療センターの施設整備内容

項 目	内 容	備 考
A棟(東棟改修)	・70床(2病棟) ・機能訓練室	完成
B棟(病棟増築)	・44床 ・通所リハビリテーション施設 ・給食施設	完成
エントランス棟	・A棟とB棟をつなぐ入口部分	H25.4月 完成

(2) レジデントハウスの整備

○研修環境整備の一環として建設していたレジデントハウスは、平成25年7月に竣工した。
・鉄筋コンクリート造、3階建て、30戸(平成26年3月現在、11戸入居)

(3) 高度医療機器の計画的な更新・整備

○高度専門医療等の充実のため、平成25年度は次のとおり高度医療機器の更新・整備を行った。

診療科	機 器 名	備 考
心臓血管外科	ハイブリッド手術システム	新設
全 科	電子カルテ	更新
内 科 リハビリテーション科	低床電動ベッドほか	更新 (酒田医療センター)

4 患者動向と収支の実績

平成25年度における患者数と収支については、次のとおりである。

(1) 患者数

区 分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H 2 4	H 2 5	増減	H 2 4	H 2 5	増減	H 2 4	H 2 5	増減
延入院患者数 (人)	199,673	192,641	△7,032	24,352	24,996	644	224,025	217,637	△6,388
実入院患者数 (人)	17,040	16,735	△305	423	477	54	17,463	17,212	△251
入院/1日 (人)	547.0	527.8	△19.2	66.7	68.5	1.8	613.7	596.3	△17.4
病床利用率 (%)	84.7	81.7	△3.0	77.4	86.7	9.3	—	—	—
病床回転率 (%)	260.0	264.5	4.5	52.5	58.6	6.1	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.7	11.5	△0.2	57.9	51.9	△6.0	—	—	—
延外来患者数 (人)	337,023	337,904	881	588	731	143	337,611	338,635	1,024
新外来患者数 (人)	31,733	32,017	284	42	37	△5	31,775	32,054	279
外来/1日 (人)	1,375.6	1,384.9	9.3	2.4	3.0	0.6	1,378.0	1,387.9	9.9
病 床 数 (床)	646	646	0	79	79	0	725	725	0

(2) 患者一人当たりの診療単価

(単位：円)

日本海 総合病院	H 2 4	H 2 5	増 減	酒田医療 センター	H 2 4	H 2 5	増 減
入 院	56,510	59,510	3,000	入 院	21,347	22,982	1,635
外 来	11,741	12,447	706	外 来	3,261	3,448	187

(3) 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	20,811	21,270	459
営業収益	16,964	17,433	469
医業収入	16,343	16,842	499
運営費負担金	621	591	△30
営業外収益	1,080	1,095	15
運営費負担金等	919	907	△12
その他	161	188	27
資本収入	2,715	2,674	△41
運営費負担金等	1,205	128	△1,077
金銭出資の受入	-	1,077	1,077
長期借入金	1,510	1,459	△51
その他(補助金等)	-	10	10
その他の収入	52	68	16

(単位：百万円)

区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支出	19,116	19,807	691
営業費用	14,601	15,602	1,001
医業費用	14,428	15,442	1,014
給与費	7,511	8,232	721
材料費	3,947	4,305	358
経費	2,872	2,831	△41
資産減耗費	4	-	△4
研究研修費	94	74	△20
一般管理費	173	160	△13
営業外費用	640	403	△237
資本支出	3,795	3,708	△87
建設改良費	2,086	2,000	△86
長期借入金返還金	1,708	1,708	0
その他	1	-	△1
その他の費用	80	94	14

(4) 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収入	18,160	18,605	445
営業収益	17,027	17,447	420
医業収益	16,343	16,822	479
運営費負担金収益	621	591	△30
資産見返運営費負担金戻入	63	34	△29
営業外収益	1,080	1,090	10
運営費負担金収益	919	907	△12
その他医業収益	161	183	22
その他の収入	53	68	15
支出	18,151	17,953	△198
営業費用	17,145	16,871	△274
医業費用	16,972	16,716	△256
一般管理費	173	155	△18
営業外費用	740	818	78
その他の費用	266	264	△2
純利益	9	652	643

(5) 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	25,350	36,423	11,073
業務活動による収入	18,095	18,518	423
診療業務による収入	16,343	16,807	464
運営費負担金による収入	1,540	1,499	△41
補助金等収入	-	37	37
その他の業務活動による収入	212	175	△37
投資活動による収入	1,205	10,654	9,449
運営費負担金による収入	1,205	149	△1,056
有価証券の売却による収入	-	10,500	10,500
その他の投資活動による収入	-	5	5
財務活動による収入	1,510	2,536	1,026
長期借入による収入	1,510	1,459	△51
金銭出資の受入による収入	-	1,077	1,077
前年度からの繰越金	4,540	4,715	175
資金支出	19,659	32,103	12,444
業務活動による支出	15,864	16,322	458
給与費支出	8,113	8,395	282
材料費支出	3,947	4,233	286
その他の業務活動による支出	3,804	3,694	△110
投資活動による支出	2,087	14,069	11,982
有形固定資産の取得による支出	2,086	1,869	△217
有価証券の取得による支出	-	12,200	12,200
その他	1	-	△1
財務活動による支出	1,708	1,712	4
長期借入の返済による支出	532	532	0
移行前地方債償還債務等の償還による支出	1,176	1,176	0
その他の財務活動による支出	-	4	4
翌年度への繰越金	5,691	4,320	△1,371

5 その他業務運営に関する事項

(1) 就労環境の整備

○「あきほ保育園」では、年末・年始の休所日を除き、24時間保育を実施した。

○病児・病後児保育事業を引続き酒田市から受託し、当該事業を活用し職員の子育て支援を行った。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	H24	H25
延べ利用者数(再掲)	304名	233名
(うち職員利用者数)	(85名)	(104名)

○病棟看護師の作業効率を改善するため、電子カルテ端末(ノートPC)の増設、ナースカート等の整備を行った。

(2) 人間ドック・検診における連携

○日本海総合病院において、「心臓ドック」(仮称)の導入を検討した。

○酒田地区医師会及び公益財団法人やまがた健康推進機構と役割分担を行いながら、連携して地域住民の検診を行った。

○日本海総合病院では、酒田市が実施した「内視鏡ドック」のうち上・下部内視鏡、胸部CTを担った。

【実績】内視鏡ドックの実績

	H24	H25
上部内視鏡	138件	143件
下部内視鏡	138件	143件
胸部CT	139件	143件

(3) 地球環境にやさしい病院づくり

○日本海総合病院において、新棟を除く既存棟の蛍光灯2,000本をLED照明に交換した。

(4) 酒田市飛鳥診療所への支援

○常勤医が不在となっていた酒田市飛鳥診療所(以下、「飛鳥診療所」という。)について、酒田市が医師を確保するまでの4月から8月までの間、日本海総合病院の医師が週に1回、飛鳥診療所で診療を行った。

【実績】派遣医師数、診療日数及び延べ患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	合計
派遣医師数	2名	4名	4名	3名	3名	16名
診療日数	4日	8日	8日	6日	6日	32日
延べ患者数	29名	64名	59名	53名	41名	246名

○日本海総合病院は、飛鳥診療所の救急患者対応を支援し、5名の患者をドクターヘリで受入れた。

○日本海総合病院は、飛島診療所の通院患者について、引続き検体検査を受託した。

【実績】 検体検査受託件数

H 2 4	H 2 5
4 8 9 件	2 2 7 件

(5) その他

○第10回日本医療マネジメント学会山形県支部学術集会を平成25年7月20日に開催し、医師をはじめ103名の医療従事者の参加があった。他の病院又は医療従事者と情報交換を行い、地域連携の一層の強化を図った。

○看護師又は助産師を目指す学生を支援するため、看護師等修学資金貸与制度を創設した。